

令和6年能登半島地震 有限会社いるか乃里 対応一覧表 (R6,1/1~1/7)

		命を救う支援期間(命の安全確保)			命を守る支援期間(物資の調達・体調管理)				
日付		R6,1/1(月)	1/2(火)	1/3(水)	1/4(木)	1/5(金)	1/6(土)	1/7(日)	
発生事項		・16:10能登半島に1回目震度5強、2回目震度7の巨大地震発生 ・CH、GHとも停電、断水。携帯電話使えず。域内放送は遅れており参考にならず。電源確保後はテレビ視聴可能。 ・震度3~4クラスの余震が続く。大津波警報発令が継続。	・CH、GHとも停電、断水継続。非常用電源稼働。 ・姫真脇周辺住宅にブロック塀の倒壊、液状化現象、道路の亀裂・寸断多数確認。	・能登地方に震度5強の地震発生。			・CH、GHとも停電、断水継続。日中、非常用電源稼働。 ・19時に通電再開確認。非常用電源は運転中止。		
	水	・当初、水は備蓄品でのみ対応。飲料水は備蓄品を使い、トイレは水を使わず紙を流さない対応へ。生活用水は断水とともにすぐに底をついた。	・水の確保に苦慮。飲料水は、地域の方から海洋深層水を分けていた。 ・生活用水は送迎担当職員と避難民家族が元真脇小学校前の用水や山水を汲みに行く。	・上水は内浦上水所へもらいに行き、生活用水は姫中組の方が数回運んで下さる。役場より水 30Lを入手。水の確保に奔走する。	・避難民のN様と事業所職員が中心になって、水の確保を終日行い、なんとか事業所内使用分を確保している。	・愛知県名古屋市のボランティアさんが持参された500Lの給水タンクを購入し、CH駐車場に設置し生活用水を多量に確保し保管できるようになる。 ・避難民のN様と事業所職員が中心になって、水の確保を終日行い、事業所内使用分を確保している。	・CH、GHとも断水継続。 ・避難民のN様と事業所職員が中心になって、水の確保を終日行い、事業所内使用分を確保している。	・CH、GHとも断水継続。 ・避難民のN様と事業所職員が中心になって、水の確保を終日行い、事業内使用分を確保している。	
	電気	・停電し非常用電源使用開始。テレビから情報収集が可能になる。台所で炊飯も可能に。非常電源用のガソリンは少量のみ。	・朝5時に発電機をかけ、発電開始。	・GHまで自家発電機からのケーブル接続を行い、GHでもテレビでの情報確認、照明の確保、炊飯が可能になる。	・非常用電源稼働し、GHへの配電完了、GHでも炊飯開始。	・19時に通電再開し、電灯が点き歓喜。	・通常使用可。		
情報	・Wi-Fi使えず、スマホ・携帯電話が使用不可。ケーブルテレビの使用可。	・CHの固定電話が使用できたので、利用者の家族とのやり取りが可能になる。GHの固定電話は受信のみ。	・事業所内のWi-Fi環境を整備し、環境内ではスマホ・携帯で情報収集と一部通話が可能になる。	・ケーブルテレビで視聴可能で、終日地震情報等の情報収集を行う。	・テレビでの情報収集。いまだスマホ・携帯電話は使用不可。	・テレビでの情報収集。一部地域や場所によりスマホ・携帯が繋がる時間あり。	・テレビでの情報収集。一部地域や場所によりスマホ・携帯が繋がる時間あり。	・テレビでの情報収集。一部地域や場所によりスマホ・携帯が繋がる時間あり。	
事業所活動	詳細	・非常用電源のガソリンが無くなり事業車からガソリンを抜いて急場をしのぐ。 ・燃料節約のため非常用電源を23時に消灯、暖を取るためホール内に石油ストーブを使用。 ・風呂場脱衣場にポータブルトイレを設置。	・炊き出し分と朝食の準備。地域避難民にも事業所利用者と同じメニューでの食事提供を開始。 ・朝昼夕と、事業所内避難民と地域避難所へおにぎりの炊き出し配布を継続。 ・ガソリン節約のため21時で消灯。	・地域避難所数か所へ炊き出しを継続。姫・真脇地区では朝食から味噌汁の提供開始。屋におはぎ、夕食にサザエご飯を提供。 ・ガソリン節約のため21時で消灯。	・地域避難所数か所へ炊き出しを継続。姫・真脇地区のほかにも小・白丸地区へも炊き出し開始。 ・小・白丸地区から要介護者10名ほどの介護援助相談を受け、食糧支援の要望もあり炊き出し継続。 ・午後、施設長小・白丸中学校訪問し要介護者対応で2名の受け入れを決める。 ・施設内では皆さんに朝食に温かい雑炊、夕にけんちん汁を提供。 ・ガソリン節約のため21時で消灯。 ・安否連絡のないGH職員がおり、事業所から真脇自宅へ訪問に行ったあと、職員家族が事業所まで憤慨して苦情を言いに来る。	・地域避難所数か所へ炊き出しの中止で職員2名が帰宅できるようになる。 ・全職員の安否、現状を再確認。輪島市町野地区のCH職員の安否が依然として不明。連絡つかず。	・物資で不足する物が始まる。また支援物資配送の情報があり、物資の確保と仕分けに奔走。 ・新規利用者の受け入れ相談者が来所され見学していかれる。申請の手順を伝える。	・避難民のN様と事業所職員が中心になって、水の確保を終日行い、事業所内使用分を確保している。	
	職員体制	・正月通所休み日、役員3名全員、CH職員4名勤務。日勤職員4名は帰宅せずに、全員夜勤し対応。	・CH日勤職員4名は帰宅せずに、全員夜勤し対応。役員3名出勤。 ・GH管理者1名、職員1名欠勤。他は勤務表通り。	・役員3名出勤、CH日勤職員5名(職員1名復帰)、夜勤職員3名。 ・GH管理者1名、職員勤務表通り。	・役員3名出勤、CH日勤職員6名(職員1名復帰)、夜勤職員3名。 ・GH管理者1名、職員勤務表通り。	・役員3名出勤、CH日勤職員6名、夜勤職員2名。 ・GH管理者1名、職員勤務表通り。	・役員3名出勤、CH日勤職員6名、夜勤職員2名。 ・GH管理者1名、職員勤務表通り。	・役員3名出勤、CH日勤職員6名、夜勤職員3名。 ・GH管理者1名、職員勤務表通り。	
	利用者対応	・非常用電源のガソリンが無くなり事業車からガソリンを抜いて急場をしのぐ。 ・燃料節約のため非常用電源を23時に消灯、暖を取るためホール内に石油ストーブを使用。 ・風呂場脱衣場にポータブルトイレを設置。	・小・白丸地区の方の薬を夫が取りに来られ、老夫婦二人の無事を確認。夕方、服薬を自宅に届ける。 ・HOT利用者の携帯酸素ポンペを小木の自宅まで預かりに行く。 ・真脇住民の方が、重度の持病のある高齢のO様を連れて来られ、健康状態に大きな不安がありケアホームで受け入れる。 ・小・白丸地区の方、自宅が全壊状態の小浦地区 K様を連れて来られケアホームで受け入れる。 ・小浦地区 N様の家を訪問。自宅は大丈夫だったが認知症があり安全の確保のためケアホームに連れてくる。 ・田ノ浦の Y 様から連絡があるが道路寸断し対応できず。 ・真脇避難所で H 様と娘さんの安全を確認。おにぎりを渡す。 ・宿泊中の O 様の金沢の家族に安全無事を伝える。 ・宇出津の T 様が家族と避難されている事を確認。薬の在庫も確認する。	・真脇の T 様のご家族より、本人の受け入れの要望があるが、余裕がなくお断りする。 ・真脇の I 様は宇出津の娘さんに避難している事を確認。 ・避難中の真脇 H 様に服薬を届ける。 ・小・白丸地区 W 様の自宅訪問し、食料、排泄用品を届ける。 ・HOT利用者の酸素供給量を節約のため、通常の1/4に設定変更。	・朝、真脇 S 様と O 様宅を訪問し、安否確認と炊き出しのおにぎりを提供。 ・夕方、羽生 T 様宅を訪問し、安否確認とおにぎりを届ける。 ・HOT使用の宿泊利用者 S 様の携帯酸素の在庫が無くなり、DMATIに相談。息子さんが金沢の業者に手配され夕方6時持参。 ・夕方、田ノ浦 Y 宅を職員が訪問。おにぎりを差し入れポータブル処理を行う。 ・避難民とCH認知症利用者間に大きなトラブル発生。CH利用者の懸念・帰宅希望の訴えが激しくなり、終日対応に追われる。	・真脇 H 様の娘さんが来られ、金沢に帰るとのことで、本人の受け入れの要望あり本日より、GHに宿泊利用開始。 ・羽生 T 様夫妻が携帯電話の充電、昼食と買い物のため通所利用。送迎、買い物同行支援。小木のスーパーが時間限定で開店しているとの情報あり同行する。 ・朝、小・白丸 W 様宅に訪問。野菜の煮物の差し入れと安否確認を行う。午後、千葉県への避難のため保険証等を取りに来られる。	・認知症利用者の中から、徐々に落ち着かない方が始まる。職員が個別対応に追われる。避難者と認知症利用者とのトラブルも激しくなり、利用者の帰宅希望など職員の介護負担が大きくなっていく。 ・地震で受け入れ開始した真脇 O 様の食事が減少し始め、体調の悪化が心配される。	・宇出津 T 様より避難所で困っているの泊めて欲しいと電話あり、午後1時に迎えに行く。額に傷あり。来所後に処置。 ・真脇 T 様は、金沢の娘さんに避難中と確認。 ・宿泊利用者の W 様が 13時過ぎに一人で外に出て、姫の下の道を歩いておられ、GH職員が偶然に気づき保護、CHIにお連れする。 ・真脇 I 様の現状を娘さんから伺う。下剤渡す。	
利用者数	・CH宿泊利用者8名、GH利用者 9名	・CH宿泊利用者 11名、GH利用者 9名	・CH宿泊利用者 11名、GH利用者9名	CH宿泊利用者 11名、GH宿泊者9名	CH宿泊利用者 11名、GH宿泊者 10名	CH宿泊利用者 11名、GH宿泊者 10名	CH宿泊利用者 12名、GH宿泊者 10名		
地域支援	詳細	・地震発生後から、地域住民 200~300名が上野台に避難。宿泊避難民CHほぼ50名GH18名が、事業所内で泊まられた。事業所内のあり切り全ての寝具を避難民に貸与。 ・上野台事業所周辺にも避難車両多数で、18時拡声器でトイレ提供を周知したところ希望者 300名以上が来所。 ・夕食前17時から車両避難民へもおにぎりの炊き出しを開始。数回にわたりおにぎりを大量に作り周囲の車両に配布。飲み物・パン・お菓子なども提供。 ・21時CHの避難民多数で一部をGHへ誘導し分散。 ・避難民の中から体調異常される方あり、救急車を要請するも、出動できないとことで、看護師を中心に一時病状管理を行う。後日回復。 ・トイレ難民多数、携帯充電難民多数、人数不明。 ・宿泊避難民CH36名(名簿ある方)他多数、GH18名。 ・動きなし。	・朝、宿泊避難民にコーヒー・お茶、おにぎり・たくあん・伊達巻を提供。以降、避難民の皆様にも当事業所利用者と同じ食事を提供。 ・朝、姫交流センターより使い水をパケツに10杯ばかりいただきトイレに入れる。 ・姫交流センター、真脇集会所に昼夕におにぎり多数とお茶、駄菓子を提供。 ・真脇 1 商店よりガソリン6L、姫交流センターにおにぎり配布に行った際に藤丸の方に船のガソリン20Lを分けていただく。 ・避難民の方に自宅で備蓄していた飲料水用の海洋深層水ポリタンク数本を分けていただく。避難民の N 様の息子さんが、避難しながら、施設内の水の確保と補充にご協力いただく。	・3日目となり避難民の方々が徐々に帰宅される。 ・避難者のM様の服薬や衣服を自宅へ取りに伺う。夕方服薬を取りに再度伺う。 ・昼食におはぎ、夕食にサザエご飯を作り、姫交流センター・真脇集会所・真脇小学校へ炊き出しを行う。 ・どうにか入手した灯油を旧真脇小学校に配る。 ・事業所のWi-Fi環境が悪い携帯通話も可能となり、地域の方が電話をかけた多数来所。 ・姫中組より使い水やガソリンをいただく。 ・職員家族のS様から卵1ケース、紙パンツをいただく。	・DMATの方が来られ医療が必要の方の把握のため来所。 ・宿泊利用者の姫M様の長男さんが支援物資(水 5箱・お茶・ガソリン 20L・カップラーメン 1箱など)を持ってきてくださる。 ・一般支援物資をボランティアの方持参。ガソリン 20L、灯油20L。 ・地域住民S様がガソリン20L持参。水の運搬など手伝っていただく。	・朝6時白丸にて避難民 140名孤立との情報あり、すぐにおにぎり100個を作り、支援物資とともに8時に届ける。 ・CH駐車場に500Lの貯水タンクを1台設置。用水から水を汲み補充し、上野台地区の住民が使い水をもらいに来れるように準備し、補充を始める。 ・地域避難所への炊き出しも始まり、当日を持って炊き出しは中止とする。	・各団体・各個人・各関係機関より支援物資が多数届き始める。午前、GH協会からの支援物資を穴水のGHまでもらいに行くが、道路混雑で断念。ひき返す。 ・N大数組組合様、公明党T議員様、姫M様より、水、米、除菌シート、トイレペーパー、ポリタンクなど、多数の支援物資をいただく。 ・GH協会山本様(穴水)から、初めての支援物資で水、ホッカイロなど多数をいただく。 ・GH協会石川県支部長(弘和会理事長)より、介護現場事情の把握と介護ボランティア要請の確認	・宇出津S様、宇出津H様、S様友人より支援物資が多数届き始める。 ・DCATを通じて介護ボランティア2名(熊本県)の1/11~の支援が決まる。 ・N大数組組合様、公明党T議員様、姫M様より、水、米、除菌シート、トイレペーパー、ポリタンクなど、多数の支援物資をいただく。	・宇出津S様、宇出津H様、S様友人より支援物資が多数届き始める。 ・DCATを通じて介護ボランティア2名(熊本県)の1/11~の支援が決まる。
	避難民	・CH36名(名簿ある方)他多数、GH18名。 ・動きなし。	・トイレ難民、携帯充電難民多数、人数不明。 ・宿泊避難民CH33名、GH27名	・トイレ難民、携帯充電難民は若干減少。 ・宿泊避難民CH11名、GH14名	・携帯充電難民の方、継続。 ・宿泊避難民CH7名、GH14名	・宿泊避難民CH4名、GH0名	・宿泊避難民CH6名、GH0名	・宿泊避難民CH6名、GH0名	
	行政・一般支援	・非常用自家発電機で電気を起こしても、施設内の台所と居室のみの通電。電気の節約のためホールに灯火できず、夜間は暗くホール内の歩行は危険だった。 ・地域避難民の中に導尿が必要な方がおられ、脱衣場にポータブルトイレを設置し、紙コップで排尿していただく。(電灯があり排尿処理が可能) ・同じく糖尿病で透析患者の方が避難。体調を確認。 ・事業所備蓄の米 120kgを使い、地域支援のための炊き出しの炊飯を開始。 ・非常用電源用のガソリンが残り少なかった。 ・避難民の中で体調異常の方がおられ、救急車を要請しても対応できないとの事で、今後このような場面での大きな課題となる。	・能登町役場健康福祉課より状況確認の電話あり。 ・GH協会S氏より現状把握の連絡あり。	・8時能登町役場へ水の相談に行くが付近住民対応で手いっぱいとの事で把握できておらず、内浦上水場で水がもらえとの連絡を役場に入れるが相手にしてもらえず。 ・17時姫港の荷上場水が届くとその域内放送が初めて入り、もらいに行く。 ・姫交流センターの倉庫付近で炊き出し開始を確認。	・DMATの方が来られ医療が必要の方の把握のため来所。 ・宿泊利用者の姫M様の長男さんが支援物資(水 5箱・お茶・ガソリン 20L・カップラーメン 1箱など)を持ってきてくださる。 ・一般支援物資をボランティアの方持参。ガソリン 20L、灯油20L。 ・地域住民S様がガソリン20L持参。水の運搬など手伝っていただく。	・愛知県名古屋市のボランティアさんが中古の消防車で使い水を多量に持参され風呂場に保管。トイレ・洗濯に使う。 ・避難されていた餅木様の孫さんから紙コップいただく。 ・姫水島様、避難民家族様、姫宮崎様、小谷内様、平田様から食料品、米、カップヌードル、野菜など多数いただく。 ・GH協会山本様(穴水)から、初めての支援物資で水、ホッカイロなど多数をいただく。 ・GH協会石川県支部長(弘和会理事長)より、介護現場事情の把握と介護ボランティア要請の確認	・各団体・各個人・各関係機関より支援物資が多数届き始める。午前、GH協会からの支援物資を穴水のGHまでもらいに行くが、道路混雑で断念。ひき返す。 ・N大数組組合様、公明党T議員様、姫M様より、水、米、除菌シート、トイレペーパー、ポリタンクなど、多数の支援物資をいただく。	・宇出津S様、宇出津H様、S様友人より支援物資が多数届き始める。 ・DCATを通じて介護ボランティア2名(熊本県)の1/11~の支援が決まる。	・宇出津S様、宇出津H様、S様友人より支援物資が多数届き始める。 ・DCATを通じて介護ボランティア2名(熊本県)の1/11~の支援が決まる。
困った事	・非常用自家発電機で電気を起こしても、施設内の台所と居室のみの通電。電気の節約のためホールに灯火できず、夜間は暗くホール内の歩行は危険だった。 ・地域避難民の中に導尿が必要な方がおられ、脱衣場にポータブルトイレを設置し、紙コップで排尿していただく。(電灯があり排尿処理が可能) ・同じく糖尿病で透析患者の方が避難。体調を確認。 ・事業所備蓄の米 120kgを使い、地域支援のための炊き出しの炊飯を開始。 ・非常用電源用のガソリンが残り少なかった。 ・避難民の中で体調異常の方がおられ、救急車を要請しても対応できないとの事で、今後このような場面での大きな課題となる。	・辛い事業所内のテレビでは能登町有線放送が受信可能で、終日テレビで地震情報の収集を行う。 ・HOT利用者の在宅酸素機器が停電(通電していない区画)で使えず。携帯酸素用の備蓄用酸素ポンペの在庫が少なくなり困った。 ・道路の崩壊や寸断が多く、必需品の確保や利用者宅への行き来に苦労する。宇出津まで往復4時間かかる。 ・非常用電源用のガソリンの補充が急務となる。	・小・白丸地区の方の薬を夫が取りに来られ、老夫婦二人の無事を確認。夕方、服薬を自宅に届ける。 ・HOT利用者の携帯酸素ポンペを小木の自宅まで預かりに行く。 ・上水はJAガソリンスタンドで内浦上水所でもらえと聞き、ポリタンク数本でもらいに行く。 ・水の確保、ガソリンの確保に奔走する。柳田合産業会所で多量の水を確認し、分けていただくようお願いするがNG。ガソリンスタンドでは1時間並ぶ車両に70L、灯油、携行ガソリン 5L給油。 ・利用者の失業等の洗濯ができず、大変になってくる。	・地域避難民が減少したが、残った避難民と当事業所の認知症利用者が同じホールで過ごされているため、トラブルが増えてくる。職員が少ない中で仲裁や関わりの工夫が必要になる。 ・自衛隊の支援物資輸送の情報が入り始めるが、不確かで困惑する。 ・勤務が続くCH職員が体調を崩す。 ・消毒綿、消毒スプレー、手拭きシート、紙コップ、などが不足してくる。松波 GENKIで何と購入。 ・白丸避難所 140人、小・白丸中学校 700人が避難中で24時間食べられないとの情報あり、支援が拡大する。 ・人手のない中で緊急時の職員確保と職員の家族対応にも苦慮する。被災しそれぞれの事情を抱える職員での事業継続の難しさを痛感する。	・長期勤務がつづき体調を崩す職員が出始める。精神的ストレスの負担が大きく、対応に苦慮する。 ・上水の確保、野菜不足、消毒物資の不足などが際立ってくる。 ・職員に限られる中、地域避難所より要介護者の受け入れの相談があるが、全員の受け入れができず断る事が多い。 ・手洗いが出来ず、消毒用のシートや消毒液が不足して、松波 GENKIで購入。	・支援物資が多数届き始め、物資の仕分け、管理、補充などのシステム化と担当者の役割分担が必要になってきた。職員が少ない中で、付属業務が多くなっている。 ・有料利用の事業所利用者や無料支援の避難民との間にトラブル発生や問題が続き、分け隔てない介護を提供し続けるのが難しくなっている。 ・有料利用の事業所利用者や無料支援の避難民との間にトラブル発生や問題が続き、分け隔てない介護を提供し続けるのが難しくなっている。 ・有料利用の事業所利用者や無料支援の避難民との間にトラブル発生や問題が続き、分け隔てない介護を提供し続けるのが難しくなっている。 ・有料利用の事業所利用者や無料支援の避難民との間にトラブル発生や問題が続き、分け隔てない介護を提供し続けるのが難しくなっている。	・引き続き、利用者が衣服汚染される方や、新たに受け入れた避難民の中で衣服を汚される方がおられ、着替えや洗濯に苦慮する。 ・夜間の利用者のトイレ通いの付き添いに加え、避難民にも歩行不安定の方がおられ、寄り添いも必要。 ・避難民の着替えが無い。施設予備品の着替えも少ない。		

令和6年能登半島地震 有限会社いるか乃里 対応一覧表 (R6,1/8~1/14)

		命をつなぐ支援期間(安全な場所への移動・連携)						
命を守る支援期間(物資の調達・体調管理)		命をつなぐ支援期間(安全な場所への移動・連携)						
日付	1/8(月)	1/9(火)	1/10(水)	1/11(木)	1/12(金)	1/13(土)	1/14(日)	
発生事項		・小木中学校からの地域避難者1名が熱発され、コロナ抗原定性検査実施、陽性反応あり。急遽、隔離対応、感染拡大防止体制に入る。					・宿泊利用者K様からコロナ感染陽性反応が出て、急遽対応。	
	水	・CH、GHとも断水継続。 ・避難民の中村様と事業所職員が中心になって、水の確保を終日行い、事業所内使用分を確保している。	・CH、GHとも断水継続。 ・循環型手洗い器 WOTAを設置していただく。 ・避難民の中村様が帰宅され、以降、事業所職員のみで水の確保に当たる。	・CH、GHとも断水継続。事業所男性職員1名が専従で、上水、生活用水の確保に当たる。 ・役場健康福祉課S様に、定期的な上水を事業所まで運んでいただけないかとお願いする。	・CH、GHとも断水継続。 ・姫中組と漁協の協力で、CH駐車場に大きな上水タンク1基と魚用荷揚げケースを借り設置。生活用水貯水タンクとして使用。上水タンク2基になる。 ・役場のご配慮で一日おきに給水車(福岡県様)が上水の補給に来てくれることになる。 ・事業所男性職員1名が専従で、生活用水の確保に当たる。	・CH、GHとも断水継続。事業所男性職員1名が専従で、生活用水の確保に当たる。 ・利用者A様から生活用水の水汲みのため発電機を暫く借りる。 ・飲水の給水システムが出来た事で、飲水の確保の負担軽減。	・CH、GHとも断水継続。事業所男性職員1名が専従で、生活用水の確保に当たる。が、洗濯物が増え不足気味。 ・飲水の給水システム、継続。 ・生活用水を安定的に風呂場浴槽にも水を溜めるため、ポンプで送水できるシステムを作る。トイレ・洗濯への水の補充が軽減された。	
		電気	・通常使用可。					
情報	・通常利用可。							
事業所活動	詳細	・被災していた職員が勤務に戻り始め、被災直後より勤務していた職員2名が自宅に戻った。以降、それぞれの通常勤務に戻る。職員配置は依然として不足気味。 ・幼児のいる宇出津のCH職員家族から電話で「こんな時に仕事でが！」と憤慨して苦情の訴えあり。	・各避難所からのコロナ感染拡大のニュースを聞き、本日、全利用者、全職員、地域避難民全員の抗原定性検査を実施。結果、金田様から陽性反応が出て、山本様が熱発。2人と隔離。 ・中組区長の協力を得て、姫からの地域避難者3名が一時共同生活できるように、旧 GHの掃除・片付けを開始。 ・職員一人ひとりが自分の出来る事、自分の担当を懸命にこなすことで、何とか対応している。	・R6.12月締めの請求業務を何とか終了、国保連ヘデーター送信。 ・翌日の介護ボランティア受け入れの準備の段取りや指示業務。 ・輪島市町野町在住 CH職員の安否確認のため、弟さんをお願いし自宅まで行っていただく。元気で地区住民集団で避難されている事を確認。安堵する。	・介護ボランティア2名の受け入れと対応。事業所と業務内容説明などを行う。 ・CH駐車場に上水の貯水タンク設置と生活用水貯水槽の設置を行う。地域住民も上水タンク使用できるように案内板を設置。	・1/14放送予定NHKテレビの取材の詳細連絡あり。 ・宿泊利用者からコロナ感染者が出て、急遽、家族のいる利用者様方の二次避難先の検討と調整を終日行う。 ・DCATのボランティア2名を被災のひどかった白丸・鶴飼地区へお連れし、被災状況の確認をしていただく。	・矢波在住のCH職員の被災状況がわからず施設長が自宅訪問。三波公民館に避難中。職員の家族の着替えなどの衣服を提供する。 ・郵便局で郵送物の受付をしておらず、12月締めの請求書の送付が出来ず。全利用者のご家族に、請求金額を電話でお知らせする。併せて、現状報告や利用者様の安否確認を行う。 ・朝9:30頃から、NHKテレビの取材あり。特に、介護ボランティアの受け入れと活動内容について重点的に取材され、お昼と夜7時のニュースで報道された。	
	職員体制	・役員3名出勤、CH日勤職員7名、夜勤職員1名。 ・GH管理者1名、職員勤務表通り。	・役員2名出勤、CH日勤職員4名、夜勤職員1名。 ・GH職員勤務表通り。	・役員2名出勤、CH日勤職員5名、夜勤職員1名。 ・GH職員勤務表通り。	・役員2名出勤、CH日勤職員4名、夜勤職員1名。 ・GH職員勤務表通り。	・役員2名出勤、CH日勤職員3名、夜勤職員1名。 ・GH職員勤務表通り。	・役員2名出勤、CH日勤職員3名、夜勤職員1名。 ・GH職員勤務表通り。	・役員2名出勤、CH日勤職員3名、夜勤職員1名。 ・GH職員勤務表通り。
利用者対応	詳細	・宿泊利用者全員の整容、手足爪切り、陰部清拭実施。 ・真脇秋脇様が自宅前の山が崩れそうになっており、家族が本人の避難を希望され、午前GHでの宿泊利用開始。 ・姫今井様が避難所でトイレ通い激しく、ご家族から宿泊利用の希望がありGHでの宿泊を開始。	・地域避難民からのコロナ感染陽性反応を受け、全利用者対象に、抗原定性検査を実施。現時点で全員陰性。一日数回のバイタル計測、体調確認を実施。 ・在宅避難民の羽生高田様からストープのポンプが都合悪いと電話あり、自宅訪問し状況確認。 ・小浦七田様の金沢のご家族から3年ぶりによく安否確認の連絡あり。詳細を伝える。 ・宿泊利用者井高様の服薬が升谷医院より届く。	・先日のコロナ陽性者発生を受け、全利用者、全職員の抗原定性検査を継続実施。全員陰性。 ・宿泊利用者Y様の娘さんから様子と体調確認の電話あり。 ・真脇O様と正式に契約。宿泊利用者として登録開始。	・コロナ陽性者発生を受け、全利用者、全職員、介護ボランティア2名の抗原定性検査を継続実施。全員陰性。 ・コロナ感染拡大防止対応継続。 ・宿泊利用者の姫M様が被災した自宅が見たいと言われ、ボランティアさんと一緒に、自宅周辺を確認に行く。 ・来所されたDCATの介護ボランティアの方々に利用者様方の介護援助をしていただく。	・先日のコロナ陽性者発生を受け、全利用者、全職員、全職員の抗原定性検査を継続実施。全員陰性。 ・宿泊利用者K様から陽性反応あり。コロナ感染が拡大した模様。感染者の隔離対応。金沢の長男に急遽連絡し、夕方、迎えに來られ金沢に行く。 ・K様の濃厚接触者だった宿泊利用者のN様が帰宅を希望され、急遽家族に連絡し自宅に送る。(三男同居:介護放棄) ・在宅避難者Y様からCHへの受け入れ希望あり、夕方迎えに行き、CHでの宿泊利用開始。 ・真脇T様から自宅が被災しており、宿泊利用の希望があるが、コロナ感染対応中で応じられず。 ・小木W様の夫より、千葉県へ避難し施設入所したとの連絡あり。 ・羽生T様の長女より、本人が暴れて警察に保護されているとの連絡あり。コロナ後の利用者対応で繁忙を極め、即時対応できず。役場から連絡あり。 ・金沢避難を検討中のO様の娘より連絡あり、詳細説明。	・コロナ陽性者発生を受け、全利用者、全職員の抗原定性検査を実施。全員陰性。 ・宿泊利用者様方に順次、全身清拭、着替え、ドライシャンプーを実施。 ・真脇T様の家族より、役場に相談して金沢の1.5次避難所への避難するとの連絡あり。 ・GH宿泊中の真脇H様の娘さんより本人を珠洲市野々江の実家に送り出すように頼まれ、朝9:00にタクシーで送る。 ・真脇O様の長男が金沢から迎えに來られ、夕方、連れていかれた。後日特養に入所された。 ・小木W様のご家族が挨拶に來られ、レンタル品など持参し挨拶して行かれた。 ・GHの入所利用者K様の不穏行動が続き、GH職員では対応できず、CHでお世話することになり、本日よりCHへ移動。 ・CH宿泊利用者Y様、O様に病変の兆しあり。観察継続。	・コロナ陽性者発生を受け、全利用者、全職員、NHK取材スタッフの抗原定性検査を継続実施。全員陰性。 ・NHKテレビの取材で普段とは違う雰囲気、利用者様方に落ち着かない動きあり、都度対応する。 ・小浦N様の自宅の様子を同居三男に確認。未だ自宅におられ、2次避難はできておらず。 ・小木W様のご家族が挨拶に來られ、レンタル品など持参し挨拶して行かれた。 ・GHの入所利用者K様の不穏行動が続き、GH職員では対応できず、CHでお世話することになり、本日よりCHへ移動。 ・CH宿泊利用者Y様、O様に病変の兆しあり。観察継続。
	利用者数	CH宿泊利用者12名、GH宿泊者12名	CH宿泊利用者12名、GH宿泊者12名	CH宿泊利用者12名、GH宿泊者12名	CH宿泊利用者12名、GH宿泊者12名	CH宿泊利用者12名、GH宿泊者12名	CH宿泊利用者10名、GH宿泊者11名	CH宿泊利用者11名、GH宿泊者10名
地域支援	詳細	・地域避難民3名をコロナ感染拡大防止のため、急遽自宅へ帰っていただく準備をする。 ・小木の金田様は熱発されコロナ陽性反応あり。急遽、役場と相談し、金沢の息子さんに連絡の上、連れて行っていただけるよう移動の準備と手配を行う。夕方迎えに來られた。 ・山本様は熱発されており、陰性だったが感染の疑いあり。宇出津に避難されているご家族に事情を話し、帰宅と病院受診をお願いする。 ・裏様は姫の自宅へ送る(長男同居者)。 ・残り3名の地域避難民が、安心して生活できるように、旧GHを共同生活の場として提供することになり、急遽、姫中組区会に相談し、準備に入る。	・県GH協会からの支援物資を、小木 GH・Tと瑞穂GH・Nに届ける。 ・避難者の姫Y様は神奈川県に帰ることを希望され、娘さんに連絡、相談の上、神奈川県まで行けるようにタクシーなどの手配・段取りを行う。 ・残り2名の避難民(M様、N様)は、旧 GHで共同生活することになり、前日に引き続き、自宅から布団やコタツを運びこむなど環境を整える。夕食後にGHへ移動。	・ホワイトボードを戸外に設置し、水の供給に関する情報や支援物資の情報を書き込み、住民への周知を図る。都度、更新。	・先日から、旧 GHで共同生活の中地域避難者2名が、自宅へ帰りたいと言われ、それぞれの自宅に送る。事業所は、運び込んだ物を自宅に戻すなど撤収作業を行う。			
	避難対応	・宿泊避難民CH6名、GH0名	・宿泊避難民CH3名、GH0名	・宿泊避難民CH1名(Y様)、GH0名	・宿泊避難民CH0名、GH0名			
行政・一般支援	詳細	・姫の地域避難民3名の共同生活実現を目指し、姫中組区長に相談。旧 GHを活用することになり、区長の計らいで姫の女性6名に掃除にきていただく。姫中組区会の手厚い支援に大感謝。 ・県GH協会の支援物資が穴水に届いているとの事で、穴水のGHへもらいに行く。 ・三重県GH協会(GHはなの家)の坂倉様が、夕方一杯に支援物資を持って來られた。	・姫中組区会から支援物資をたくさんいただく。 ・上水の確保が大変で、職員の負担が大きく、役場健康福祉課に定期的な上水の補充が出来ないかを相談する。 ・部外者からのコロナ感染の持ち込みを警戒し、以降、来訪者全員に玄関で抗原定性検査を実施することに。 ・介護ボランティアのお二人が大量のパンやお茶など持参いただいた。 ・姫中組区会、県漁協の協力で、上水タンク1基を借りて設置。合計2基になり周辺の住民もいつでも上水を汲みに来れるように整備。 ・柳田体育館へ支援物資を取りに行く。	・午前中、GH協会を通じてDCATの介護ボランティアの方2名が、介護支援のため来所。そのまますぐに介護ボランティアとして現場業務に入ってください。支援物資の仕分け整理、利用者介護援助などを支援いただく。 ・介護ボランティアのお二人が大量のパンやお茶など持参いただいた。 ・姫中組区会、県漁協の協力で、上水タンク1基を借りて設置。合計2基になり周辺の住民もいつでも上水を汲みに来れるように整備。 ・柳田体育館へ支援物資を取りに行く。	・石川県バリアフリー協会より支援物資をいただく。紙製食器、紙オムツ、除菌用品など多数。 ・真脇区長より米5kgを計8袋いただく。			
	介護ボランティア			DCAT介護ボランティア様2名(熊本県)来所	DCAT介護ボランティア様2名(熊本県)	DCAT介護ボランティア様2名(熊本県)	DCAT介護ボランティア様2名(熊本県)	
困った事	・在宅利用者の状況把握のための訪問は必要と思うが、道路が寸断されたり、う回路で時間が掛かり、電話での安否確認にとどまっている。 ・朝食にパン食提供した方が、負担が少なく助かるが、開店している店が少なく、唯一のGENKYも午後には商品が無い。 ・一人暮らし、介護放棄、認知症などの避難民の次の避難先の確保のため、役場や担当ケアマネに代わり、家族や関係者と連絡を取り、移動手段、受け入れ先の手配に時間を費やした。 ・地域避難民の方々を自宅に帰すため準備するが、「ひとりでは怖い」との事で、急遽、共同生活の場を準備することになる。旧 GHを提供し環境整備することになった。準備に多忙を極める。	・コロナ感染者の発生に大変困った。予備部屋のない中の隔離で感染防止対策がなかなか徹底できず。感染者が認知症でもあり、見守りや行動制限に職員1名がかりつきりとなる。 ・一人暮らし、介護放棄、認知症などの避難民の次の避難先の確保のため、役場や担当ケアマネに代わり、家族や関係者と連絡を取り、移動手段、受け入れ先の手配に時間を費やした。 ・地域避難民の方々を自宅に帰すため準備するが、「ひとりでは怖い」との事で、急遽、共同生活の場を準備することになる。旧 GHを提供し環境整備することになった。準備に多忙を極める。	・前日に引き続き旧 GHでの生活の場を整えるため、施設長と職員1名が掃除などの整備に行く。 ・地域避難民の方で、独居で遠方にししか家族のいない方の、今後の生活の場を確保することに時間を割いた。 ・水が不足の中、コロナ感染者の衣服の消毒、洗濯、寝具などの入れ替えに苦慮する。戸外で消毒し浸け込むなどの処理を行う。	・CH宿泊利用者には介護度が高く、介護援助が必要な方が多い。職員の介護負担が大きいため、介護ボランティアさんの支援にとても助かった。 ・水や消毒薬、施設内での居室スペースが不足する中で、コロナ感染拡大防止対応が極めて困難。限られた職員での感染者特別対応も難しい。	・時間と労力を割いて準備した旧 GHでの共同生活の場であったが、二晩で二人とも自宅に戻られた。高齢者の満足のいく暮らしの実現は難しくなった。 ・小木中学校からの避難民から、事業所利用者へコロナ感染が拡大、コロナ対応が継続し、隔離や感染予防対応に苦慮する。遠方のそれぞれの家族に病院受診と本人引き受けを頼むしかなし。	・施設内でのコロナ感染発生や、利用者様方の避難状況が2次避難に移りつつあり。特に、遠方に家族のおられる方の移動の手続きが多くなる。個別対応が一度に重なり、多忙を極める。 ・利用者の着替え、便秘、尿失禁での処理対応が続き、洗濯用の水の確保が深刻となる。飲水に続き、生活用水への更なる取り組みが急務。	・テレビ取材協力のため、情報提供や映像撮影、インタビュー対応など、普段と違うスケジュールでCH内が混乱する。認知症利用者様方にも影響あり。 ・地域医療の中核病院が被災しており、病変時の病院受診に心配あり。	